

グリーンレター Green Letter

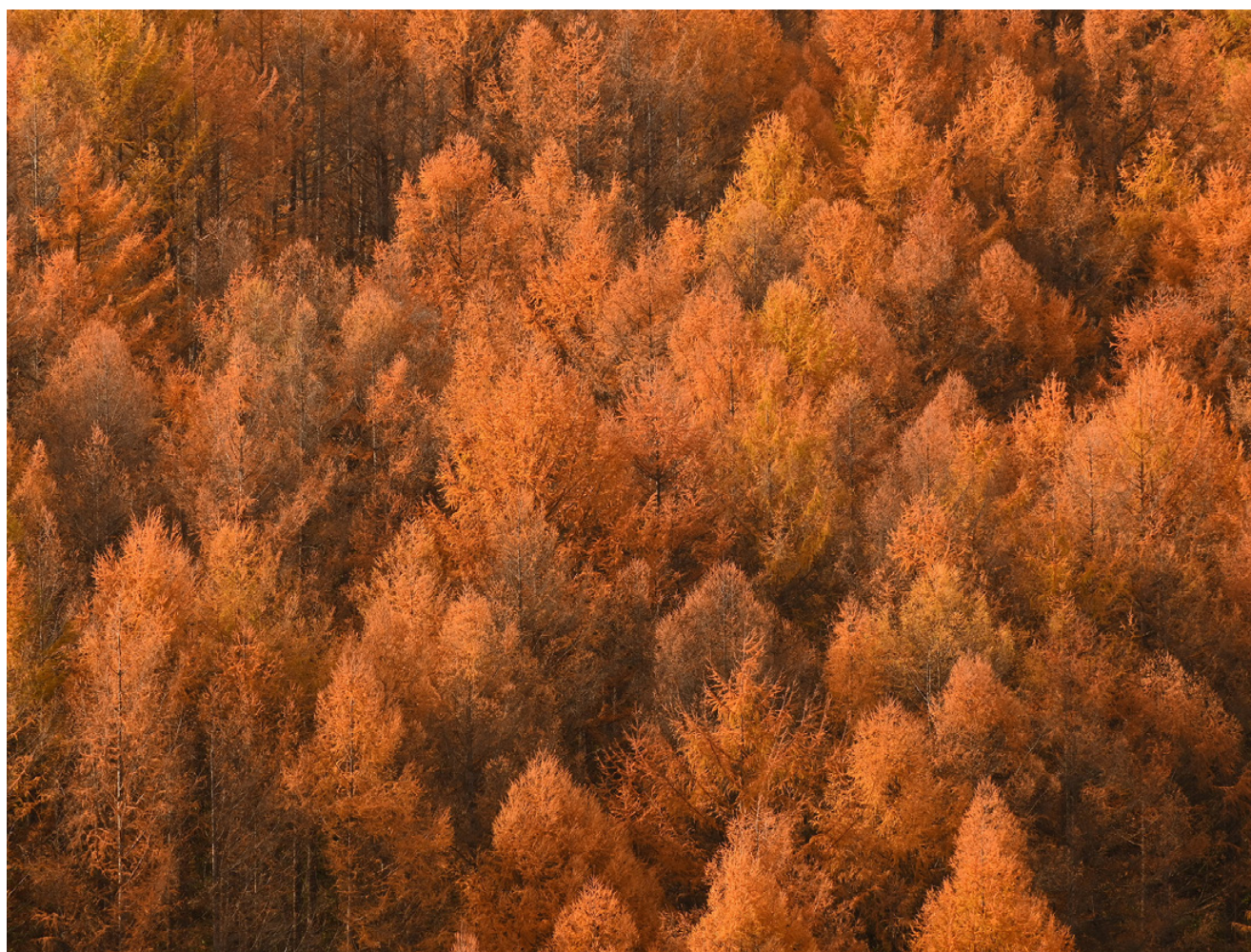
Green Column グリーンコラム

01 ホタル撮影の技術

02 2種類のドングリ虫

Vol.330

2024/12/01



鬼丸和幸 《冬を迎える前の輝き》

Photo 今月の1枚

気温が一気に下がり、いよいよ冬の到来です。郊外の丘陵地に広がるカラマツ林。紅葉したカラマツの葉が、地面に厚く積もった光景を見ると、ちょっと寂しい気持ちになります。夕方近くになり、柔らかい太陽の光がカラマツ林に当たり始めると、厳しい冬に入る前の、最後の燃えるような輝きの瞬間を見せてくれました。(鬼丸和幸)



01 Green Column グリーンコラム

ホタル撮影の 技術

写真・文／鬼丸和幸

今年度の美幌博物館特別展テーマは、「蛍が舞う風景」。現在開催に向けて、準備を進めています。特別展は、これまで撮りためました道内外のホタル（ヘイケボタル、ゲンジボタル、ヒメボタル）の写真をメインに、ホタルに関連する実物資料や美術資料などについて、ご紹介できればと考えています。

ホタルの魅力は、何と言っても「光る姿」。点滅しながら飛ぶ姿は、とても神秘的です。この姿をカメラで撮影するには、「長時間露光」という撮影技術を使用することがあります。カメラのシャッターを一定時間開放にした後、シャッターを切ると、例えばその間にレンズの前に現れた光の流れが、そのまま映り込みますので、シャッターを開放した時間分の光跡が記録されることになります。ホタルが点滅して飛んでいる前で、30秒シャッター

を開放した後に切ると、30秒間にホタルが光りながら飛んだ光跡が、記録されるというわけです。この方法には、長時間シャッターを開放し続ける方法と、一定時間シャッターを開放する操作を繰り返して、最後に全て重ね合わせる方法とがあります。シャッター開放時間が長いほど、ホタルの光が必要以上に多く記録され、現実離れしてしまうので注意が必要となります。

そのため、実際に自分の目で見て記憶した風景が、忠実に表現・再現できているように、シャッター開放時間や絞り値、光感度を決めることが重要になります。しかし、いまだに試行錯誤を繰り返し、苦労しながら撮影しています。

2 種類の ドングリ虫

写真・文／城坂結実



今年の秋は、ミズナラやカシワのドングリ*が豊作で、美幌博物館に隣接する美幌みどりの村森林公園でたくさんのドングリを見かけました。別に珍しくもないドングリですが、毎年、見かけるとついつい拾ってしまいます。

みなさんは、ドングリ拾った後どうやって保存していますか？拾ったドングリに穴が開いて、中から幼虫が出てきた！という経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。調べてみると、ドングリの中にいる幼虫を駆除するには、1週間ほど冷凍する、ゆでる、電子レンジで加熱するなど、色々な方法があるようです。

私はドングリから出てくる、白色でずんぐりむっくりとした幼虫（写真）が好きなので、拾ったドングリを深い容器に数日入れて、出てくる幼虫を観察します。今年もそうしてみたところ、

いつも見るのとは違う、細身の幼虫が出てきました。色も白色ではなくピンク色。これまで気がつきませんでした。が、ドングリから出てくる幼虫は1種類ではなく、何種類かあるようです。

白色でずんぐりむっくりとした幼虫は、ゾウムシの仲間。ピンク色で細身の幼虫は、ハマキガ（蛾）の仲間のようにです。これらの幼虫はドングリの中身を食べて成長し、その後、土の中に潜^{さな}って蛹になります。土の中に潜る習性があるからなのか、ドングリを深い容器に入れておくと、幼虫は下へ下へと潜^{ふた}っていきます。蓋がないバケツのような容器でも、幼虫は逃げることはないので安心して観察できます。苦手でなければ、お試しあれ。

*ブナ科の果実のことをドングリと呼んでいます。

Exhibition 展示

企画展「おひろめコレクション展」

12月7日(土)～令和7年1月12日(日)



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

スノーシューレンタル

1/7(火) 9:30～15:00

美幌博物館 受付・無料

対象／ご本人あるいは同伴者にスノーシューの経験がある方、
靴のサイズ 24.5cm～28.5cm (18才未満は保護者同伴)

申込み／申込み不要。先着5名。

プチ工房「しめ縄飾り」

12/13(金)、14(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1階 講座室・300円

講師／町田善康(美幌博物館)

対象／どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み／申込み不要



プチ工房「バスボム」

1/10(金)、11(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1階 講座室・300円

講師／八重柏 誠(美幌博物館)

対象／どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み／申込み不要



博物館講座(歴史編)「アイヌ刺繍を体験しよう」

1/18(土) 10:00～12:00

美幌博物館 1階 講座室・800円

講師／河本真由子氏、河本園美氏(ピポロアイヌ文化協会)

対象／中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み／電話で博物館まで(～1/17)。定員12名。



送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどの
ご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。

Tweet つぶやき

美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

博物館に隣接する森林公園で、ばったりヒグマに会いました。2度と
出くわさないよう、ボタンを押すと音が出る熊よけグッズ
を購入。「猛犬」「猟銃」「爆竹」の3つの音を出すことが
できます。「爆竹」のボタンを押すと、ピピッ...ピピッ...と
爽やかな小鳥のさえずりが流れます。ええ!?(城坂結実)



【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

